

第7回区政改革懇談会・議事要旨

日時 第7回 平成20年9月26日（金）、19:00～21:00

会場 サンパール荒川 高砂・羽衣

議事要旨

開会

1. 座長あいさつ

○ 座長

- ・ 荒川区は、全国的な調査において行政サービスの評価が高いが、一人一人の区民がそれをどう実感しているかという点では課題があるのではないかと。行政だけが施策を行うのではなく、それを受け止める区民や地域のあり方も考える必要があると考えている。
- ・ 前回まで「子育て」を切り口に議論し、最後の時間を使って各グループの発表を行ったが、発表の準備時間が必要だという意見が出されたため、今回から、グループ討議を終えた次の回の冒頭にグループ発表を行うこととしたい。
- ・ 今回は、「防犯」を切り口に、「地域コミュニティ力の向上」について話し合いたい。
- ・ また、防犯に関する区の事業概要の資料が配布されている。内容を理解した上で議論したいので、区に説明をお願いします。

○ 事務局

（資料：「防犯に関する参考資料」の説明を行った。）

○ 座長

- ・ このように説明された事業は、行政が行っている事業である。それぞれを地域でどのように受け止め、不備を埋め、横の連携を図るか、という観点からすれば不十分な点があるのではないだろうか。
- ・ 例えば、子どもの防犯だけでなく、大人を対象にした防犯事業や地域コミュニティの活性化なども含めて討議してほしい。

2. 地域別グループ討議

- ・ 【グループ討議の結果まとめ】別紙参照

3. 次回の懇談会について

○ 座長

- ・ 今回も、議事録のまとめを事前に送付するので、確認をお願いしたい。次回は、今日の討議のまとめを踏まえて進める。
- ・ また、意見記入用紙を配布しているので、自由に活用してほしい。

次回日程：平成20年10月20日（月）19:00～21:00

以上

第7回 区政改革懇談会 グループ討議の結果まとめ

平成20年9月26日(金)午後7時～9時 @サンパール荒川 高砂・羽衣

<南千住グループ>

1. 住宅街での不安

【荒川区の犯罪の現状】

- ・ 23区全体では犯罪率は低いものの、時折、空き巣、ひったくり等の発生を耳にする。
- ・ 荒川区では凶悪犯罪は少ないが、自転車の盗難が多いと聞く。鍵を掛けていても壊して持っていくようだ。
- ・ 商店が休業の知らせを掲示していたら、空き巣に入られた例がある。

【住宅街でできる防犯】

- ・ 隣に小学生が住んでおり、太鼓の練習をしている音が聞こえると、その小学生がいることが確認でき安心できる。
- ・ マンション等のエレベーターは子ども一人では乗らないほうがよいのではないか。
- ・ 家を留守にするときは両隣に声を掛けて出かけたほうがよい。
- ・ 歩道での自転車と歩行者の事故が大変多いので、歩く人は家がある方に、自転車は車道の方という規則をつくって、周知を図ることはできないか。

【暗い路地の不安】

- ・ 痴漢が時折発生しているようで少々不安を感じる。特に南千住八丁目の「はなみずき通り中央」バス停付近の通りは、まっすぐな道の閑静な住宅街で明るい人通りが少なく危険と感じる。駅北側の線路東側の歩道も暗く危険である。
- ・ 自転車から降りて歩いて行ってほしい。
- ・ 路地などの細い道には街灯が少なく暗いところがあり危険である。街路灯が樹木の繁茂、時には雑草で見えなくなっている。

【行政の施策への要望】

- ・ 区、町会が街灯をつけていない、つけられない細い路地に関しては、各家庭でのセンサーライトの設置の補助金を出してほしい。

2. 行政の施策

【行政機関の防犯事業の現状】

- ・ 防犯等、地域の安全を担当する行政機関は、区、警察等色々あるが、それぞれの関係、取組、協力関係の有無が分かりづらい。
- ・ 警察署から防犯連絡所を委託されているが、名目だけで機能していない。
- ・ 新しく転入してきた人は、区の制度や取組をあまり知らない、又は知る機会がない。区報は新聞を取っている家庭にしか配布されていない。

【行政機関の持つ情報の一本化】

- ・ 地域の安全に関わる活動、制度についての広報は、できるだけ一本化してほしい。住民の関心をひきつける活動と広報をしてほしい。
- ・ 広報誌で区内の犯罪状況も定期的に掲載してはどうか。
- ・ 情報収集、地域参加の多チャンネル化、広報の一本化、縦割りの是正を行ってほしい。

【行政の施策の情報発信に関する提案】

- ・ 区のホームページで、各行政機関の防犯情報について、「ニュース、制度、活動広報、募集」などを収集し、ポータル化を行ってはどうか。

【パトロールや交番の現況】

- ・ 安全パトロールカーは大きい道は速く走り、また細い道には入ってこない。
- ・ 「安全・安心パトロールカー」は大通りだけではなく、細い通りにも入って通ってほしい。
- ・ 交番に警官がいない。特に南千住八丁目の交番に警官を多く配置するようにしているが、実際には不在のときもある。警官 OB ボランティアすらいないときもある。

【行政の施策への要望】

- ・ 地域に埋もれている区民の問題意識、善意を引き出してほしい。特に、各種推進員に団塊世代、定年退職者を呼びかけてほしい。

3. 町会による防犯活動

【町会活動の現状】

- ・ 町会が行っている防犯活動は色々あるが、余り知られていない。
- ・ 地域によって町会活動の有無や頻度が異なる。
- ・ 南千住四丁目付近では、マンションが林立し、転入転出が増加し、地域活動参加人口が低く、地域としての助け合いは困難である。駅の東側の地区の中でも、南千住八丁目の再開発前の住民が住んでいる集合住宅にのみ町会があるが、高齢化が進んでいる。

【町会と地域の連携】

- ・ 防犯や交通安全活動は町会単位のケースが一般的だが、町会加入率が低い地域からも参加者を募ってもよいのではないか。
- ・ 町会は、学校や保育園との情報交換はできているようだが、マンション管理組合との連携を図ってほしい。
- ・ 広く区民からボランティアを募集し、防犯、防災、交通安全を横断した地域安全連絡員を設置してはどうか。

<荒川グループ>

1. 子どもたちを犯罪から守る

【子ども達の見守りができる地域】

- ・ 小学校や保育園の子ども達の見守りを地域で行うことが重要。これは、犯罪の抑止力になると思っている。
- ・ 直接に犯罪から守るだけではなく、子ども達がパトロール員とコミュニケーションをとりながら通えているかといった点も、地域の親たちと見守るといい。
- ・ 自らパトロールができなくても、こういった見守りをできることからやっていくべきである。
- ・ 子どもを不審者から守るだけではなく、交通事故や歩きタバコなど、子どもにとっての危険は多くある。そのためにも、地域全体での見守りが大切である。
- ・ 特に、自営業などで昼間地域にいる大人が他の家庭の子どもも守る意識を持ち、体制をつくることが重要である。

【声を掛け合える地域】

- ・ 安心して過ごせる地域にするには、子どもだけでなく親も、地域の行事に積極的に参加するなどして地域の人の顔を知り、声を掛け合えるまちにしたい。
- ・ 「だれが不審者で、誰が安全な人か」という判断を子どもは十分にできないのではな

いか。ある程度、大人が守ってあげるべきである。

- ・ 地域の大人と話せない子どもになってはいけない。

【子どもを守る環境の整備】

- ・ 親が子どもと一緒にいる時間を増やす必要がある。一人でいる時間を作らないことが大切である。
- ・ 働く親は、子どもと遊ぶ時間や体力がないのだろう。
- ・ 生活のためには働かなければならない事情がある。その間、安心して子どもを預けられる環境をつくることが大切である。

【区の防犯事業の周知】

- ・ 地域が一丸となって子ども達の見守りをするためには、パトロール事業などの区の事業を親たちに認知させることが必要である。どのような事業が行われているか知らなければ協力のしようがない。
- ・ パトロール員とその腕章などをもっと普及させた方がいい。

2. 犯罪情報の広報・伝達

【犯罪情報のすばやい伝達】

- ・ 「学校情報配信システム」について、地域の不審者情報が1～2日程度遅れて配信されている。犯罪情報の発信が遅いのではないか。

＜区からの説明＞

- ・ 犯罪の情報には、すぐに警察が公表できるものとそうでないものがあるなど、タイムラグが発生してしまう場合もある。

【犯罪の抑止力として音による広報】

- ・ 昨年まで、防災無線でひたくり情報がよく放送されていた。これは情報伝達のためだけでなく、ひたくり犯罪の抑止力にもなっていると思う。
- ・ 「安全・安心パトロールカー」の巡回車は、黙って回るのではなく、防犯情報などを広報しながら回ったらどうか。
- ・ スピーカーを使った音による情報発信は、犯罪の抑止に効果が高いと思う。

＜区からの説明＞

- ・ 防災無線のスピーカーでの情報発信を行っていたが、聞こえにくいとの声もあり、現在は縮小している。

3. 犯罪者をなくすには

【犯罪防止の教育が必要】

- ・ 「防犯」には、犯罪から守る側面だけではなく、犯罪者を減らす側面がある。犯罪から逃げる施策だけでは不十分である。
- ・ 家庭、地域、学校で、犯罪を抑止するような教育が必要である。「人に迷惑を掛けない」ということをもっと強く体で覚えることが重要である。
- ・ 教育現場を見ていると、子ども同士のけんかが少なくなったと感じる。けんかの仕方を知らない子どもが増えた。「安全に、痛い思いをする機会」が少なくなっている。
- ・ 刑罰の苦しさがTV報道では余り伝えられていない。子ども達にその実態と罪の重さを知ってほしい。
- ・ いじめや万引きなど、小さな犯罪行為を見逃さないこと。教育は根本的な対策だと考えるが時間がかかる。だからこそ行政や学校が中心になって進めてほしい。

4. 区の事業の妥当性について

- ・ 役所主導の縦割りで、「こうしたらよかろう」と思っている事業を実施しているだけ

である。地域の人がどのように受け止めているのか評価はしてほしい。

- ・ 地域が必要と感ずることをやってほしい。区の事業に区民の意見を取り入れているのか。

5. 地域による防犯の重要性

【警察によるパトロールの減少】

- ・ 警察によるパトロールが減ったように思うので、地域での防犯対策が重要である。
- ・ 警察の人手不足と検挙率の低下が悪循環を起こしていると思われる。

【地域と行政の両輪で進める防犯】

- ・ 子どもだけでなく、親、地域の防犯力を高めることが重要である。
- ・ 地域が防犯を担っている、ということを親が知るところから始めたい。
- ・ 区の事業は片輪でしかない。もう片輪は地域力、両方の連携が重要である。

【学校との協力体制の強化】

- ・ 学校が警察の介入を嫌がる傾向がある。学校は「学校の自治」というようなものにプライドを持っているのではないか。
- ・ 学校が地域や警察ともっと連携を図り協力体制をつくるべきである。
- ・ 学校が警察や地域と協力体制があるかどうかは、児童の親にとって学校選びのポイントになる重要な点である。

【民間業者との連携】

- ・ 地域の見守りや通報など、住宅を回る宅急便や郵便などの業者と連携を図れないか。

<区からの説明>

- ・ 「児童安全対策協議会」に郵便局も入っている。

【地域ぐるみで防犯を行う気概の保持】

- ・ 『荒川区は犯罪を許さないまちだ』という気概を持つことが大切である。

6. 区の事業についての質問

- ・ 「安全・安心パトロールカー」の巡回員は、犯罪の現場に出くわした際、取り押さえができる人材なのか？

<区からの説明>

- ・ 犯罪の現場に出くわした際の対応については、警察と連携を取るようにしている。

<町屋グループ>

1. 世代別の防犯への対応について

【地域の子どもの見守り】

- ・ 何かあっても、地域で過ごしている子どもにコミュニケーションが取りづらい。特に学区域外からの入学の子どもは普段から近所づきあいがいいので顔が分からない。
- ・ 地域の子どものために普段から声掛けができるような環境づくりが必要である。

【小学生の登下校の見守り】

- ・ 小学生に対しては、学童から自宅までの送迎などを行っており、防犯対策は十分ではないか。

【障がい児の登下校の見守り】

- ・ 障がい児は養護学校までスクールバスで通うことが多く、自宅付近のバス停から自宅までの行き来について、地域の小学生と同じように見守りをする必要があるのではないか。
- ・ 学童の送迎と同じように、登録者に対して送迎を行ったらどうか。

【中高生に対する見守り】

- ・ 町屋地区の子どもは足立区北千住の塾に行くことが多いが、北千住に中学生を恐喝する人がいるらしい。
- ・ 今は家を追い出されても、中高生が行く場所は色々あり、犯罪に巻き込まれる可能性が増えているのではないかな。
- ・ 尾久の原公園で、夜遅くに遊んでいる。
- ・ 犯罪等に巻き込まれないように地域が出来ることは、声をかけることぐらいかな。
- ・ 女子高生が遅い時間に平気で出歩いている。本人の意識が足りないのではないかな。
- ・ 特に女子高生が夜出歩いていたら、声掛けをした方が良いのではないかな。

【オレオレ詐欺】

- ・ オレオレ詐欺に自分も引っ掛かるかもという心配があるが、一方で我が家にはかかってこないと思い込んでいる。
- ・ 高齢者はだまされてしまうのではないかな。

2. 地域での防犯対策について

【防犯パトロールの充実】

- ・ 「安全・安心パトロールカー」が街中を走ったり、防犯ベストを着た人が歩いているのは防犯に効果がある。
- ・ ボランティアで防犯ベストを着て参加している者の立場からすると、仕事として活動しているシルバーの人々と、無給で参加しているボランティアと見分けが付くようにして欲しい。
- ・ 車と徒歩によるパトロールだけでなく、自転車でパトロールしたらどうか。
- ・ 荒川ゆうネットでひったくりが多いという情報が流れているが、対策が取れないかな。

【防犯灯の設置】

- ・ 防犯灯は、近所の人にまぶしいといって嫌がる声があり、安全性と静かな生活とのバランスが難しいが、暗い所に防犯灯の設置は必要である。

【コンビニの役割】

- ・ コンビニが24時間開いているから、夜安心して歩ける。
- ・ コンビニに防犯機能があると良い。コンビニを区の防犯拠点の一つとして位置づけられないかな。

【交番の警官不足】

- ・ 近所の交番にいつも警官が居ないので、どこに駆け込めば良いか心配である。荒木田の交番はいつも警官が居ない。
- ・ 交番は昔より頼りにならない気がする。
- ・ 街中のパトロールはもちろん必要だが、交番という拠点にも警官が常に居ることが必要である。

【防犯シミュレーションの実施】

- ・ オレオレ詐欺や痴漢などの危険に会ったときの対応方法を知ることが、子どもも大人も必要なのではないかな。
- ・ オレオレ詐欺は、警察の人に話をしてもらう方がリアリティがある。
- ・ 荒川CATVで「今回の防犯シミュレーションコーナー」などを作り、ビデオを流す。
- ・ 地域には、ふれあい館・ひろば館や高齢者施設など各世代がそれぞれ集まる拠点があるので、そこで防犯についての対応を体験する場を設ける。自治会などが場をつくり、専門の人にシミュレーションをお願いすることはできないかな。

【防犯情報の提供】

- ・ 荒川ゆうネットで不審者情報等の情報を流しているが、効果があるのかどうか分からない。
- ・ 携帯電話で情報が伝達されると良い。

【治安の改善】

- ・ 20年前よりも今は静かで安全になっている気がする。
- ・ 客引きもいたが、随分注意されて静かになったので、今は余り危険を感じない。

3. 地域で何らかの防犯対策が必要と思われる場所

- ・ 一階が駐車場のマンションは、時間によってはだれもいなくて不安である。
- ・ 尾久の原公園等、夜の公園は怖くて入れない。
- ・ 尾久橋付近も防犯灯が無く、暗い。
- ・ 第五中学校のそばに大きな工場があるので、明かりが無く夜は暗く感じる。

4. 防犯対策とプライバシー

- ・ 防犯カメラなど、防犯のための監視とプライバシーの侵害は紙一重である。

5. その他

- ・ 猫や鳩に餌をやる人がいるので、道路等が汚れる。
- ・ 地域の人が猫の面倒を見たらどうか。
- ・ 餌をやる場所を川の土手の方に持っていったらどうか。

<尾久グループ>

1. まちのたたずまい

【地域の安全性】

- ・ 新しくマンションなどが建ち、生活が部屋を中心に、まちに無関心になっている。
- ・ 公園が奥まで見通せないところもある。
- ・ 今のようなマンション中心の開発では、まちに住民の目が届かなくなる。
- ・ 新しい開発には新しい問題が出現する。対応を事前に考えておく必要があるだろう。
- ・ 安全なまちをつくるために、開発の仕方を考えていく必要があるのではないか。
- ・ 安全なまちのたたずまいとはどのようなものか、住民と区がまちのたたずまいをどうしていくかなどを考え、まちづくりを進めていくことが必要と思う。
- ・ 地域の安全性のために建物などに工夫をする。

【下町の良さ】

- ・ 少し前まで各家から、まちにみんなの目がとどくような開放性があったがそれがなくなった。
- ・ 住民の視野がとどかない公園などの空間が最近多くなっている。もっと下町の良さを活かすべきである。
- ・ 顔の分かる、身近な付き合いのできるたたずまいをつくる必要がある。

2. 地域での子どもの見守り

【地域と学校の連携】

- ・ 子どもの安全を守るという意識を地域全体で高める必要がある。
- ・ 地域で子どもを守るといっても、保護者にしてみれば他の地域の学校に子どもが通っていると、実感がないという声を聞く。
- ・ 当事者である保護者と学校が子どもの安全を見つめていくことが連携の核になるが、

それが地域でつくりにくい。

- ・ 学校自由選択制になってから、学校と地域（町会や地域の活動が団体など）との結びつきが弱くなっている。
- ・ 地域が一体となって子どもの安全性に責任を持つような意識の共有がしにくくなっている。
- ・ 子どもの安全を考えた場合、学校自由選択制は疑問がある。
- ・ 小学校ぐらいは地域の学校に通学させるほうが、子どもを地域で育て見守るという視点では必要と思う。

【交番の位置の変更】

- ・ 以前小学校の前に交番があったときは、子ども達が学校の帰りによって遊んだりしていた。それが、安全に大きな役割を果たした。
- ・ 今は、道路の奥に交番が移動し、子どもも行かない、地域で起こった小さな事件などが交番に届かない、交番も気がつかないというケースが多く、立地的に不向きと考える。

【安心・安全ステーションの設置】

- ・ 尾久には設置されていないがどのようなものか。設置されていない理由は何か。

＜区からの説明＞

- ・ 廃止された交番を利用して設置している。
- ・ 尾久には廃止された交番がなく、安全・安心ステーションは設置されていない。

3. 防犯活動の効果向上

【それぞれの活動がバラバラで効果が希薄】

- ・ 防犯関係の種々の組織でよく会議が持たれているようだが、それだけで終わってしまっているケースが多いと感じる。区の組織は、ばらばらに対応している。効果が発揮できていない。
- ・ 区が自転車につける防犯パトロールステッカーを配布している、その自転車のマナーの悪さなどが目立ち、パトロール効果が半減しているのではないか。ステッカーの本来の主旨が徹底できていないように感じる。
- ・ 「安全・安心パトロールカー」が熱心に回っているが、巡回の時間帯やコースが寸分変わらずいつも同じである。犯罪者の立場から見ると空白時間を示しているようで、逆に心配になる。
- ・ いろいろな活動が熱心にやられているが、それぞれの活動の連携が出来ていない。
- ・ 区は基本的な方向性などを決め、活動の連携のための場をつくることが重要である。

【犯罪に対する各部署のルールや意識の向上】

- ・ 犯罪発生の初動調査のときに、消防団、町会などに十分知識がなく、証拠が失われるケースがある。

4. 防犯に関する地域の情報

【地域での犯罪情報】

- ・ 空き巣など同じところで同じ犯罪が起きている。
- ・ 情報の伝達に、スピード感がない。
- ・ 地域に犯罪等の情報が寄せられない。プライバシー保護もあるが、情報の伝え方を工夫すれば良い。
- ・ 昨年、mixi 内のコミュニティーで「三河島公園内に刃物を持った男がうろついている」という情報があったのに、区などほかからは何も情報がなかった。

【情報の伝え方に工夫が必要】

- ・ 子どもの安全については、子どもは独自の情報を持っている。それらを大事にして警察等はすぐ把握し対応する必要があると思う。
- ・ もう少し地域の生きた情報を敏速に収集したり、提供することが今の時代重要だと思う。
- ・ 町会・商店会など地域に根ざした組織にネットで情報をやり取りする仕組みが有効ではないか。

5. 交通の安全性について

【道路がデコボコで危険】

- ・ 東尾久 2. 3. 4. 5 の交差点。道路がデコボコで、少しスピードを出すと大きくバウンドする。いつも危険に感じている。
- ・ ここでは、歩道と車道の段差が大きく、お年寄りなどは横断するときに前につんのめり転ぶ危険がある。先日も転んで大きな事故になる危険があった。
- ・ 区は、道路を補修する段階で立ち会い、道路の安全性を確認して欲しい。歩道と車道の高さの適正化をお願いしたい。
- ・ この交差点は交通信号の横断の時間が短く、お年寄りが中央で立ち往生することもある。横断信号の時間を見直して欲しい。

【自転車マナーの向上】

- ・ 無灯火の禁止を徹底してほしい。
- ・ 通行区分帯の分かりやすい表示を行うべきである。

【自動車停車マナーの徹底】

- ・ 交差点の目の前で停車し、大変危なく、注意してもやめない。特に、交通量の多い時間帯に見られる。

<日暮里グループ>

1. 悪質な犯罪が増えている現状

【悪質犯罪に対する地域の対応】

- ・ 地域の人間としてどこまで不審者とわたりあえるのか。がんばりすぎて「お礼参り」されては困る。警察はどこまでやってくれるのか。
- ・ 犯罪の悪質化・巧妙化・組織化が進み、悪質商法との違いがなくなっている。犯罪はいくら法律を整備してもその網をかいぐってくる。こうした悪質犯罪に地域の力ではとても太刀打ちできない。
- ・ 悪質犯罪に対して地域でできることもある。先日も、警察と協力して振り込め詐欺の注意を呼びかけるチラシを案内板に貼ったところ、それを見ていたために被害にあわずに済んだケースがあった。
- ・ 防犯と一言でいっても軽犯罪から重犯罪まで幅広く、対応も違う。検討範囲を絞って議論すべきである。

2. 住民にとって地域の人が「知らない人」になっている現状

【地域の人とのつながり】

- ・ 地域のつながり（近所づきあい）がないので、近所の人・地域の人が「知らない人」になってきている。子どもから見ても誰が信用できるのかできないのかわかりづらい。
- ・ 地域の人が「知らない人」になってしまったことで、地域の防衛機能がなくなっている。
- ・ 周りに無関心で、できればかかわりたくないという気持ちが強い人が多い。だれかが

倒れていても手助けしない。何かあったときに心配である。

- ・ 以前、道で倒れていた人をタクシーの運転手が助けたことがあった。その情報は区にも入っているが、区がその後何もしていない。タクシー運転手を表彰したり、区報に載せて、こうした見習うべき行為を広く伝え、防犯活動の啓発に使っていくべきではないか。
- ・ 子どもには「知らない人にはついていってはいけない」と教えているが、地域との交流がないので子どもは地域の人にも「知らない人」と思われている。
- ・ 昔は地域の人が子どもを叱ったり声かけしたりすることができる関係があったが、今はそうしたこともできないし、叱ったり声をかける人がいなくなっている。

【顔見知りになることが第一歩】

- ・ 地域の行事に家族ぐるみで参加して顔を見せ、知り合うことが必要ではないか。
- ・ 日頃のあいさつなどちょっとした声かけが顔見知りになることの第一歩になる。
- ・ 家庭から地域につながることが大事であり、そのためには家庭での教育をしてほしい。

3. 防犯活動に関する行政と地域の連携

【防犯活動に必要な行政の支援】

- ・ 防犯活動も防災活動のように行政主導で行ったらよいのではないか。
- ・ 区民の防犯活動を活発にし、安全性を高めるための行政の支援が必要である。
- ・ 防犯アドバイザー派遣など町会が活用できるようにもっと行政の支援が必要である。

【行政と町会の連携】

- ・ 行政の防犯施策は充実しているが、実際の実効性にムラがあるのではないか。
- ・ 行政は防犯アドバイザー派遣をやっているが、町会が必要性感じなければ活用されない。活用するか否かするかは町会次第である。

3. 自分のまちは自分で守ろう

【意識づくり】

- ・ 自分のまちは自分で守る、という意識づくりが大事である。

【防犯パトロール】

- ・ 防犯パトロール支援をなるべく多くの人たちの協働の活動としてパトロールし、地域の意識の高さを示し、犯罪を防ぐ。
- ・ 町会の班ごとのつながりをもっと強めてパトロールに参加させる。
- ・ 女性も防犯活動ができるようにしてほしい。実際の状況はコミュニティによって違う。

【町会の活性化】

- ・ 町会活動は歴史が古く世襲化し、希薄化してきている。多くの人に参加して活性化させたい。
- ・ 時代が変わり、昔のように半強制的に活動に参加してもらうことはできなくなった。組織の考え方を変えていくことは長い時間がかかるが、今の時代の考え方も受け入れていくことが大事である。なるべく新しい人も含めて多くの人の参加が必要である。

【企業の地域参加】

- ・ 若い世代は何かと忙しく、地域活動に参加できる状態ではない。企業の CSR 教育・活動（企業の社会的責任）として地域社会への参画を導入してもらってもよいのではないか。具体的には、会社を早く切り上げてその空いた時間で社員が企業の所在する地域の地域活動に出かけるなどだろうか。地域密着型の企業参加型もあり得るのではないか。
- ・ しかし、地域活動は強制してやると長続きしない。地域活動は自分の生活の場で自主的に参加することが大事ではないか。